

おうじさま
カエルの王子様

むかし おひめさま おひめさま しろ
昔々、あるところに、かわいいお姫様がいました。お姫様はお城の
ちか いずみ な だいす
近くの泉のほとりでマリ投げをするのが大好きです。ところがある
とき、投げた金色のマリが泉の中に入ってしまった。そのまましずんで
な きんいろ いずみ なか
しまいました。「ああ、どうしよう。」しずんでいく金色のマリを見
おひめさま な だ
て、お姫様はシクシクと泣き出しました。

な おひめさま
すると、「泣いたりして、どうしたのですか？かわいいお姫様」
いずみ なか よ おひめさま
なんと、泉の中からみにくいカエルが呼びかけてきたのです。お姫様
い
はちょっとビックリしましたが、カエルに言いました。

たいせつ きん いずみ なか
「大切な金のマリが、泉の中におちてしまったの」
わたし
「そうですか。では、私がひろってきてあげましょう。でもその
わたし とも いっしょ ごはん た いっしょ
かわり、私をお友だちにして、一緒にご飯を食べたり、一緒に
ね
ベッドで寝かせたりしてくれますか？」

おひめさま やくそく
「ええ、いいわよ」お姫様はカエルと約束しました。でも、カエルと
とも おひめさま
友だちになるのはいやなので、お姫様はカエルがマリをひろってきて
も しろ はし かえ
くれたとたん、マリを持ってお城に走って帰りました。

じ ひ おひめさま しょくじ と
次の日、お姫様がみんなと食事をしていると、だれかが戸をたたいて
よ おひめさま と あ
呼びました。「お姫様、戸を開けてください」「だれかしら？」

おひめさま と あ ひめ
お姫様が戸を開けると、そこには、あのカエルがいたのです。「姫や
なに
、何をそんなにこわがっているのだね？」

おとう おうさま き おひめさま そと
お父さんの王様に聞かれてお姫様は、外にマリをひろってくれた

カエルがいて、そのカエルとお友だちになることを約束してしまった
のだと話しました。すると、王様は言いました。「姫や、あいてが
カエルでも、約束したことはまもらなくてはいけないよ」「でも」
「約束はまもりなさい」そこでお姫様は、いやいやながらもカエルを
部屋の中に入れて、一緒にご飯を食べて自分の部屋につれていき
ました。するとカエルは、一緒にベッドで寝たいと言い出したのです。

「まあ、カエルのくせに!」お姫様はすっかりおこって、カエルを
つまみあげると、力いっぱいかべにたたきつけたのです。ところが、
カエルは下におちたとたん、やさしい目をした王子様になったのです
。カエルは、悪い魔女に魔法をかけられていた王子様だったのです。
お姫様は王子様と仲良くなり、結婚してしあわせにくなりました。